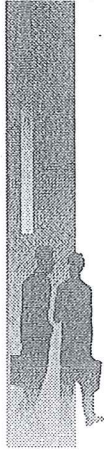


住宅造木

間伐材で耐震補強

大阪府木材連合会 京大と新工法

大阪府木材連合会は京都大学と共同で、木造住宅が大きな地震に耐えられるように耐震補強の新工法を開発し、27日に新工法を使ったモデルルームを大阪市港区に開設した。杉の間伐材を利用するため低価格で、住宅の1室だけでも補強工事ができる。連合会は府内の材木店への販売を本格的に始め、木造住宅の耐震化と間伐材の利用を促す。



同連合会はこの耐震壁を「壁柱(かべしら)」という商品名で1枚10万～15万円(加工費・施工費含む)で販売する。住宅の1室を補強する場合、費用は他の工法に比べて7分の1程度で済むと説明している。

と説明している。

◆新耐震工法を公開 西日本での国産材の流通拠点、大阪木材相互市場(大阪市港区)で27日、開業86周年の感謝市が開かれた。

会場ではスギの間伐材を活用した新たな耐震補強工法で建てられたモデルルームを展示。京都大学防災研究所の川瀬博教授が新工法のメリットを関係者に強調した＝写真。



壁全体を補強する従来の工法に比べて、施工部分が少ないため低価格なうえ、間伐材の利用にも役立つという。府木材連合会の越井健会長は「命の安全を守る耐震事業に、木材業界も積極的にかかわっていきたい」と話していた。